

合唱団「音楽のある村」について

クリストファー 大西 信一

八月三日は朝から温度が上がり、大変暑かった。しかしその日、私たちは冷房の効いたチャペルで素晴らしいハーモニーを耳にすることが出来たと思う。

「韓国の合唱団が聖路加チャペルの礼拝に出席し、礼拝後コンサートを開くことを希望している」という話が立教学院の柳時京司祭からあったと、井原司祭から聞いた二か月ほど前は、まだ涼しかった。その実現までには多くのかたの働きがあった。礼拝式文や佐藤司祭の説教は柳司祭が当日朝までかかって韓国語に訳され、団員の席の確保や献金、陪餐、礼拝後のお茶の用意等、いろいろな問題については、チャペルのかたがたに細やかなご配慮をいただいた。

合唱団「音楽のある村」は韓国のアマチュア合唱団の中でもトップレベルの歌唱力を誇る。平均年齢三十三歳。ほとんどの団員が韓国各地の教会の聖歌隊指導者であり、クリスチャンである。七年前に音楽監督イ・コンヨン、指揮者ホン・ジュンチョルによって創立

された。イ・コンヨン氏は、聖歌集増補版十番や、聖路加聖歌隊がアンセムとして取り上げている「主の祈り」、「平和を願う祈り」の作曲者として知られ、ホン・ジュンチョル氏は大韓聖公会・大聖堂の聖歌隊指揮者でもある。

今回の来日の目的について、六月二十九日付の共同通信社は次のように伝えている。

――二〇〇一年一月、J R 山手線の新大久保駅で線路に転落した人を助けようとして死亡した韓国人留学生と日本人カメラマンへの鎮魂歌を、日韓の合唱団が八月二日、東京都内での合同コンサートで初演する。「大久保混声合唱団」と韓国の合唱団「音楽のある村」が共演。両方の合唱団で活動経験のある韓国人女性が仲を取り持った。――

コンサート前日の金曜日に来日した合唱団は、その日の夜、全員で新大久保駅を訪れ、鎮魂歌「友のために」を歌った。突然の歌声に駅員や乗降客は驚いていたようだが、静かに彼らの歌声に聞き入っ

ていたという。

八月三日の礼拝で臨時の聖歌隊として奉仕をしてくれた後のミニコンサートで「友のために」を歌いながら涙する彼らの姿を見て、聞いて感動したのは私だけではないと思う。主に感謝。

音楽のある村

